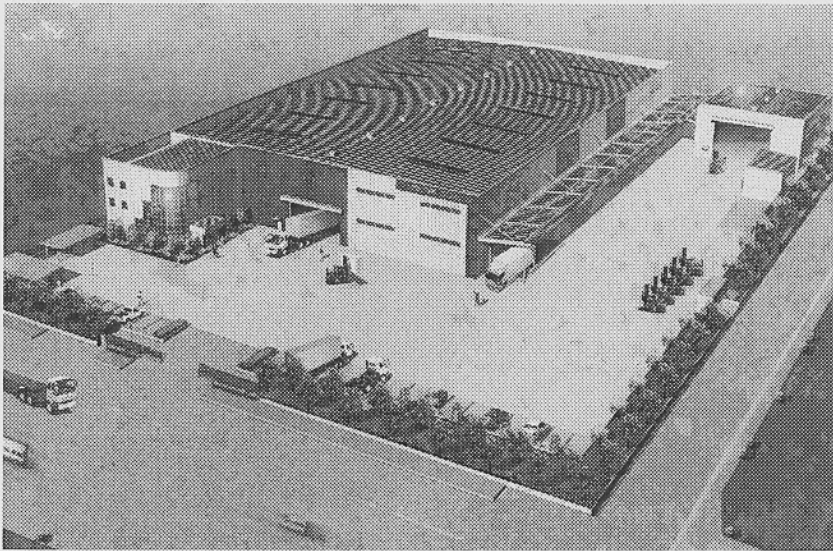


# 処理選別センター新設

## 希少金属の回収拡大へ

メタルドゥ



来年稼働する新2nd物流センター

希少金属スクラップ商社のメタルドゥ(大阪市、藤田國廣社長、☎06・6448・5151)は、今年12月に「新2nd物流センター」を神戸市に建設、2009年1月に本格稼働する。総工費は

約23億円。スクラップの受け入れ量の増加に伴うもので、新センター完成後は、現行の2nd物流センター(尼崎工場)は縮小する方針。世界的なレアメタル資源の再生利用が叫ばれる中、国内で

のスクラップ需要も高まりを見せている。自社工場でのリサイクル事業に注力し、取り扱ひ量を将来的には現在の2倍を目指す。新センター開設に伴い、ISO14001認証を追加する予定だ。

主流だが、従来から薬品を用いた化学反応や磁性の強弱、グラインダーによる火花検査も併用している。金属を分別し、委託会社でさまざまな加工処理をした後、製造メーカーなどに納入している。

同社では、チタンやニッケル、コバルトなどのレアメタルや非鉄金属を取り扱っており、中でもニッケル系が約7割。取り扱ひ量は月に2000トほどだ。取り扱ひ比率は、国内7割、海外3割となっており、リサイクル業者間との取引が50%強を占める。海外は輸出を含め、欧・米・豪・アジア等二十数カ国でビジネスを展開している。

今後世界的な金属資源のニーズに応じるためには、リサイクル産業はさらに重要性を増すと考えられる。

レアメタル原料は、さまざまな金属成分が混在しているため、成分分析を行い商品化していく現在ではX線による分析が

藤田社長は、「環境やコンプライアンス意識を伴った企業を目指し、事業展開を図っていきたい」と抱負を語った。